

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	平成市民の森整備事業			事業コード	0665
所属コード	142000	課等名	農林部 林政課	係名	林政係
課長名	高橋 山雄	担当者名	山口 翔	内線番号	6054
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	活力ある農林業の振興	コード	1
	基本事業	生産意欲と技術の向上	コード	1
予算費目名	一般会計 6 款 2 項 2 目 平成市民の森整備事業（016-02）			
特記事項				
事業期間	☒ 単年度 ☐ 単年度繰越 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	平成 9 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

城下もりおか 400 周年記念事業として取得した平成市民の森を、未来の盛岡市民に贈る記念の森として整備し造成するもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

城下もりおか 400 周年記念事業の一環として取得した平成市民の森の整備を行い、未来の盛岡市民に贈る記念の森を造成することとなった。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成市民の森をグリーンツーリズムで活用する働きがあり、今後、都市住民の自然のふれあいの場としてさらに機能していくと考えられる。

2 事務事業の実施状況 (Do)・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

平成市民の森整備

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 整備計画面積	ha	9.45	9.45	9.45	9.45	9.45
B						

C						
---	--	--	--	--	--	--

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

平成市民の森の造成，整備

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 整備面積	ha	9.45	9.45	9.45	9.45	9.45
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

快適な市民生活に欠くことのできない森林資源を健全な状態で後世に引き継ぐ事を目的とし，現在の市民とともに平成市民の森の造成を行う。100年後の市民に平成市民の森を贈り，森林の重要性について理解を深めてもらい，林業関係者の意欲増進と一般市民の方の林業に対する理解を深めてもらう。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 整備実施率	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	%	100	100	100	100	100
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	1,146	977	1,101	1,099
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	1,146	977	1,101	1,099
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	350	350	350	350
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,400	1,400	1,400	1,400
計	トータルコスト A+B	千円	2,546	2,377	2,501	2,499

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

平成市民の森の利用を促進することにより，森林・林業に対する理解が高まり，林業者の生産意欲の向上と生産活動の活性化につながる。

② 市の関与の妥当性

城下もりおか 400 周年記念事業の一環で 100 年後の市民に広葉樹の森を贈るというコンセプトであり，市の企画で実施してきたものであるため，引き続き市が継続して行うべき事業である。

③ 対象の妥当性

平成市民の森全体を保育・整備しているため，整備面積の拡大や縮小はできない。

④ 廃止・休止の影響

100 年後の市民に贈る大径樹が育たないばかりでなく，森林が荒廃し土砂災害などが懸念され，市民のいこいの場としての機能が失われる。

（2）有効性評価（成果の向上余地）

平成市民の森全体への植栽が完了し，過去に植栽した樹木も生長してきていることから，市民に対してイベント等を開催し広く周知することで，市内の林業関係者はもちろんのこと，他市町村の林業関係者にも興味を持っていただく。

（3）公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

平成市民の森は通年，無料で市民開放しており，いつでも誰でも訪れることができる。

（4）効率性評価

現在でも縮小した予算の範囲内で整備しており，これ以上の削減は整備が行き届かないこととなる可能性がある。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）改革改善の方向性

市民を対象としたイベントの開催や広報媒体を利用した宣伝，また，ベンチや雨天時等に利用できる東屋等の新たな施設整備により，利用の促進を図る必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

イベントの開催や施設整備には新たなコストや人件費がかかるため、予算の確保が必要となる。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

これまで市民植樹祭や森林整備事業で「平成市民の森」を整備してきた。しかしながら、時代の流れから、水も電気もなく、無人の施設のため利用が難しくなっている。

それでも、この森は市には珍しく広葉樹の森となっているため、環境学習や森林の観察に適した森でもあることから、その利用が図られるよう工夫を行う必要がある。